

修士課程科目(R02)		授業形態	講義(対面)	先端 ^ハ 付：自由2単位 高度 ^メ ィカル：選択必修2単位
科目名	臨床薬剤学概論		ナンバリング コード	先端 ^ハ 付：GDMFB1017 高度 ^メ ィカル：GDMAM1011
テーマ	薬物の適正使用に係る薬物動態の理解と応用			
開講時期	1年後期 月曜日 6限			
授業場所	桜ヶ丘共通教育棟5階502講義室(対面授業)			
担当教員	武田 泰生 (連絡先：takeda@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp)			
G I O	1) 薬物の生体内動態を考慮した医薬品の臨床薬剤学的特徴を理解する。 2) 薬物の作用機序を学び、生体内における薬物相互作用と生体へ及ぼす影響について理解する。			
S B O	1) 医薬品を有効かつ安全に用いるための臨床薬剤学的特徴を理解できる。 2) 処方作成の理論を理解し、各種疾患に対する処方箋の妥当性を理論的に説明できる。 3) 薬事法や麻薬及び向精神薬取締法に則った正しい薬剤の取扱いができる。 4) 薬剤剤形の特徴ならびに投与方法の違いによる生体内の薬物動態制御機構を理解できる。 5) 薬物及び化学物質の環境に及ぼす影響について理解し、説明できる。 6) 小児及び高齢者薬物動態について理解し、説明できる。 7) 薬剤の副作用や薬剤併用に伴う薬物相互作用を理解し、生体への影響について説明できる。 8) 薬物と生体内蛋白質との相互作用について理解し、説明できる。 9) 薬物療法に係わる免疫について理解し、説明できる。 10) 地域結集型治験ネットワークシステム構築の重要性と医薬品臨床治験について説明できる。			
授業内容(90分×15回)				担当者
1	臨床薬剤学入門			武田 泰生
2	処方学概論			武田 泰生
3	薬物動態制御学概論			武田 泰生
4	薬物動態に関する基礎的実験			寺菌 英之
5	小児・高齢者薬物動態学概論			武田 泰生
6	薬物・環境化学物質の衛生化学			寺菌 英之
7	疼痛緩和医療と麻薬適性使用			菅原 英輝
8	医薬品適性使用			藤崎 裕子
9	薬物作用機序の分子薬理学Ⅰ			武田 泰生
10	薬物作用機序の分子薬理学Ⅱ			武田 泰生
11	薬物作用機序の分子生物学			寺菌 英之
12	抗がん薬耐性化機構と適性使用			寺菌 英之
13	医薬品情報管理概論			寺菌 英之
14	オーダーメイド医療化プロジェクト			武田 泰生
15	治験ネットワークの現状と医薬品の臨床治験概論(授業予備日2月4日実施)			寺菌 英之
教科書・参考書	臨床薬理学(医学書院)、疾患と今日の処方(医歯薬出版) 今日の治療薬(南江堂)、治療薬マニュアル(医学書院)			
評価基準 および方法	積極的な授業への参加…70%、レポートによる評価…30%			
アクティブ・ ラーニング	方法：⑥その他(実習) 回数：15回中1回			
時間外対応	オフィスアワー	18:00以降		
	メール・HP	takeda@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp		
	授業後	授業後の対応可		
その他	特記事項なし			

